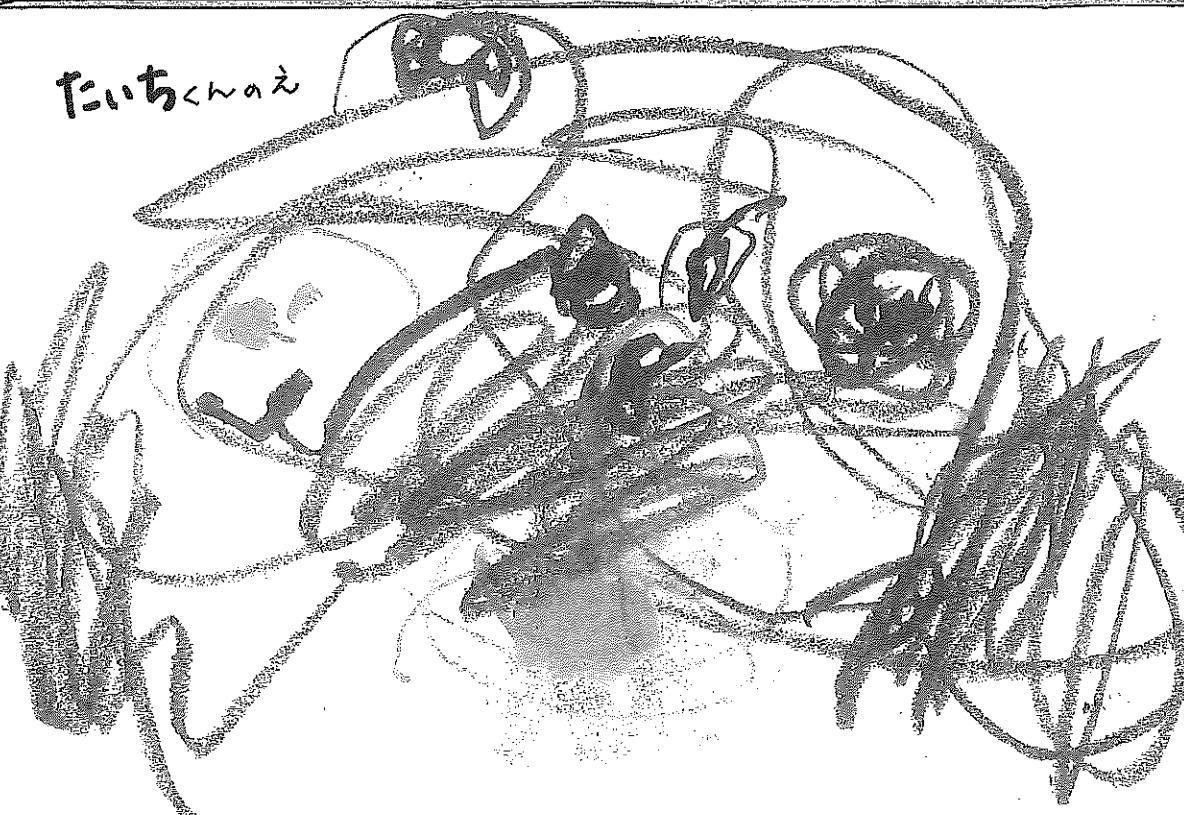


# 子どものじかん

Vol.63

たいちくんのえ



## ●特集●

不登校の子どもを持つ保護者さんたちに伝えたいこと ······ 1~2

笑いのたねプロジェクト代表 後藤誠子  
&講演会アンケートより

断捨離とリノベーション ······ 3  
森 俊博

ココロノアリカ vol.35 ······ 4  
「私の取り扱い説明書 その1」

水戸南高等学校 定時制同窓会会长 宮田 哲郎

よしこの世界一周大冒険シリーズ ······ 5  
「5回目の世界一周旅行は開運旅」杉野 美子

ほっと!HOT!スクウェア  
「イクメン講座」より ······ 6  
大内 清志

絵本の紹介 ······ 7

図書館司書ずんちゃん  
「このほんよんでくれ!」「あめだま」  
「しんせつなともだち」

まちがいさがし ······ 8  
b y はっかあめ

水戸子どもの劇場より ······ 9  
毎月の活動紹介 参加者募集

その他のお知らせ ······ 10~11  
事務所MAP 訪問型病児保育のご案内 広告

発行：認定NPO法人 水戸子どもの劇場

〒310-0912 茨城県水戸市見川2-82-11

TEL/FAX 029-255-0908

E-mail gekijo310@citrus.ocn.ne.jp

URL <http://mito-kodomo.securesite.jp>

LINE・メルマガも発行しています。



# 不登校の子どもを持つ保護者さんたちに伝えたいこと

笑いのたねプロジェクト代表 後藤 誠子

不登校の子どもを持つ保護者が毎日のように相談にやって来る。彼らに必ず伝えるのは「大丈夫、きっとなんとかなる」という言葉。私が苦しみのどん底にいた時に一番言ってほしかった言葉だ。

我が子が学校へ行けなくなると、たいていの保護者はパニックに陥ってしまう。我が子にいったい何が起きているのか、親として何をしたらいいのか、そもそも誰に相談したらいいのかもわからない。不安と心配で頭がいっぱいになり泣いてしまう母親、イライラして子どもに当たってしまう母親もいる。私のように無理やり引きずって学校へ連れて行く親も多い。そんなことを繰り返していると子どもの状態はどんどん悪くなっていく。一番近くにいて頼れる大人であるはずの親が不安になっている姿を、朝から晩まで見せられるのだ。子どもからしたら不安どころか怖くなってしまう。大人がこんなに不安になるくらい今の自分はダメなんだ、と自己否定でいっぱいになる。だから、まず保護者には落ち着いてもらいたい。先のことばかり心配したってどうにもならない。先のことではなく今の子どもと自分を見てほしい。

とはいっても、そんなに簡単には大丈夫なんて思えないだろう。そんな保護者には子どもたちはあなたに笑顔でいてほしい、幸せになってもらいたいと思っているんだよと伝える。まさかそんなことが、信じられないと思うだろう。しかし私が出会ってきた不登校経験者のほぼ全てが親には幸せでいてほしいと言うのだ。

私自身も次男に  
「お母さんに何かできることある？」  
と聞いたことがある。すると次男は言った。  
「笑って。」と。

虐待と思えるようなことをされてきた人もいる。それでも親には幸せでいてほしいと言うのだから本当に驚く。しかも笑顔の振りではいけない。心からの笑顔でないと。子どもたちは親の心なんですすっかりお見通しなのだから。

さて、ここで親たちは困ってしまう。どうやつたら自分を幸せにできるのか忘れてしまっているから。子どもが幸せになってくれればそれが自分の幸せ、学校に行って他の子どもたちと仲良く楽しく過ごし

てほしい、その姿を見せてほしいと願ってきた。それも一つの幸せではある。しかし、それは人任せの幸せだ。いつから自分の幸せを子どもに背負わせるようになってしまったのだろう。

最近、次男の口から次のような言葉を聞いた。  
「一番辛かったのは、母親の思うような人に自分はなれないんだとわかった時だ。」  
いつの間にか苦しく重いものを次男に背負わせていた。後悔してもしきれない。

ではどうしたら幸せになれるのか。答えは一つ。自分の人生を自分の足で歩くことだ。まずは小さなことから決めてみればいい。今日は一日家でゴロゴロすると決めて実行する。決めた通りにできた自分をよしよしする。実行できなくたっていい。決めて実際にやってみることが大事なのだ。小さなことを積み重ねていくことで目の前の景色が変わってくる。やりたいこと、やりたくないことが自分で決められるようになる。繰り返しているうちに笑顔も増えてきて、ある日子どものことを心配していない自分に気付くだろう。例え子どもが苦しんでいたとしても、それは子どもの問題と境界線を引いているに違いない。遠回りのようだいて、実は子どもの幸せのためにはこれが一番の近道だと思う。

さて、あなたは幸せですか？不登校の保護者だけではない。幸せな大人は苦しんでいる人たちに「大丈夫、なんとかなるよ」と笑顔で言えるだろう。そんな大人が地域にたくさんいれば、生きづらい子どもたちもきっと幸せに生きられる。さあ、まずは大人が幸せになろうよ！



2023.11/12(日)後藤誠子さん講演会アンケートより

感想 26名 (会場参加 33名、オンライン 21名)

とても素敵なお話でした。私も今年の4月から居場所を地域で作っています。優しくあきらめる。知ろうとしてほしい。など。メモさせていただきました。後藤さんYouTube登録しました。ありがとうございました。

後藤さんのお人柄や次男さんの笑顔がとても素敵で参考になりました。オンラインはありがたいです。今回沢山の気づきがありました。子供の目線に立ってみているつもりですが、もう一度よく今を見てあげようと思いました、ありがとうございました。

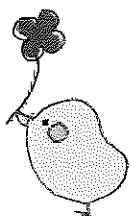
飾らない言葉で自身の体験を聞かせていただき、とても心に残りました。大人が思う学校の位置付けを変えていければ、みんなが生きやすくなるのかなと思いました。学びの機会はどこにもいつでもあって、選べる世の中になるように何かしていけたらと思います。

現在中学校で勤務していますが、学校内でも「学校にこないとだめだ」「無理に登校しなくていい」という意見に分かれます。私は後者の意見で、学校が嫌なお子さんにとって、校内フリースクールで救われるお子さんはどれだけいるのか疑問に思っています。(学校に行くことで保護者は安心しますが、お子さんの気持ちは救われるのでしょうか… ) 子ども劇場さんやワラタネスクエアなど、社会地域と繋がれる場所が子どもたちにもっと必要ではと考えています。子育ては家庭と学校だけで行うものではないという認識がもっと社会全体に広まってほしいです。本当にいろいろと考えさせられる講演会でした。自分自身、学校外でできることを考えていきたいです。

今、社会問題となっていて、私にできる事は何だろうと常々思っていました。私の考えも、とにかくおかあさんが安心できる環境だと考えております。が、一方で、おかあさんの強さが子どもを追い込んでいる所もあり、安心な環境に気付けない、ひとりで何とかしようと思う人にどうしたら届くのか…そんな事を考えながらきかせて頂きました。

子どもの優しさ、健気さに気付いてほしいですね。

ありがとうございました。



子どもが引きこもりになった時の、率直な感想など聞けたのでとても参考になりました。

部屋から出たくなかった気持ちや、当事者の気持ちも聞くことが出来て良かったです。

素晴らしい講演会をありがとうございました。やはり、直接話を聞けるのは、ほんとにうれしいことです。後藤先生の次男さんの写真や動画に心をうたれました。後藤さんが次男さんのことだけでなく、今、ひきこもっている子どもたちや、子育てをしているお母さんお父さんの息苦しさを、うけとめて、それを世の中に、なんとしても伝えよう、としているのが、ばんばん響きました。

引きこもりと聞くと「いけない事をしている」「学校に行かなければならない」と考えてしまっている人が多いと思うが、好きで引きこもっているわけではないことや引きこもっているからといってやりたい事がないわけではない事がわかった。小学生の頃、不登校のお友達の家にお迎えに行ってくれと言われた事がありました。その時の私は「一緒に行こうよ」とその子に声をかけましたが、その子はどんな気持ちだったのかなと考えました。後藤さんは悩みながらも次男さんのことを考えて子育てなさって今があるのだなと尊敬します。我が子が大きくなって同じように悩む事があったとしたら、次男さんのように笑顔でいられることを第一に考えてあげたいと思います。

「優しく諦める」という言葉が心に響きました。親も含めて完璧な人間などいないんですね。小さい子供3人を育てており、毎日忙しく過ごしていますが、私も子供たちもそれぞれ生きがいを感じる人生を送れたらと思いました。

# 断捨離とリノベーション

森 俊博

TV番組に、ゴミ屋敷化した家を断捨離してきれいにするというものがある。その番組を見ている側も、心の中がすっきりしてきて気持ちがいい。それにしても、なぜ癒やされる気がするのだろうか。

それは、断捨離を指南する専門家が、ただ片付けろと言うだけではなく、そのゴミ屋敷化した家の持ち主となぜこのようになってしまったのか、ゴミ化したものにはどのような物語があったのかなどと話を聞きながら一緒に片付けるからなのだ。

この作業の構造は、場所こそ違えカウンセリング室で行われている対話に似ている。ゴミを片付けながら、どうしてこれが捨てられなかつたのか、そのモノにまつわるエピソードも開示される。そして、その当時はどのような仕事をしていたのか、どのような生活をしていて、どのような家族との歴史があつたのかなども引き出される。

こうした作業と対話の中から、断捨離を委託した家の持ち主は、その思い出を語りながら、自分が何にこだわっていたのか、モノを通してココロの奥にあつたものに気づき、時に涙を流しながらその思いをモノと一緒に片付けるのだ。ココロの中にあつたこだわりや悲しみ、または怒りに気づき、それを解放してやることで、窮屈だったココロの中がすっきりしてゆく。

人間関係が上手くいかなかつたのは、自分の過去の栄光にしがみついていたからだなどと気づくことで、絡まっていた紐がほぐれてゆく。部屋に空間が生まれてくると、ココロに余裕も生まれてくる。そうすると、いろいろなものが許せるようになってくる。そして過去にこだわらなくなり、未来を見るようになってくる。これは断捨離カウンセリングといつてもいいかもしれない。

そのような依頼者(クライアント)と断捨離指南者(カウンセラー)をTV画面で見ている我々は、彼らを取り囲んで共感している。その気持ちも彼らに通じているのかもしれない。我々も、自分の中にあるこだわりに気づき、自分事として見ているのだろう。これは、自助グループのセッションのようである。

一方で、全く反対の趣向を見せる別の番組にも注目させられる。それは、古民家をリノベーションするという企画のものである。こちらは古いモノを大切にして、簡単に捨てないで再利用し、より価値を高めようとする人の活動を見せる番組である。

現代は、消費者が欲しいと思った物を生産者が作るという順番で製品ができるのではなく、生産者が作った物をカタログのようにして陳列して、その中から消費者が選ぶという転倒した順番で商品が作られ、消費されていると國分功一郎は言う(『暇と退屈の倫理学』、新潮文庫)。

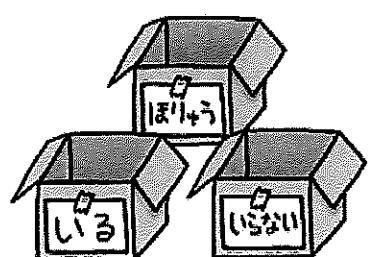
確かに、雑貨店などで売られている物は必要のないものばかりである。國分も言うように、PCやスマートも必要もない機能を搭載した新機種を大々的に宣伝して消費者の購買意欲を刺激している。これ程短期間でモデルチェンジする必要があるのだろうかと國分は言う。

結局、新しい機種を買っても、使うことのなかつた機能が多かつたと嘆く人も多いに違いない。そのような無駄な物を大量に作つて環境破壊にも寄与している。その無駄な物を作ることを仕事にしている新しい職種も増えているし、それを売るために宣伝を依頼される広告代理店のような会社もあり、それが大企業にもなっている。そのおかげで雇用が生まれ、経済が回るからそれでいいのかもしれないが、そういう現代の消費社会のあり方はどうなのだろうという疑問もこの番組は提起してくれている。

この番組はただ古いモノを大切にしようというメッセージだけを発信しているのではない。政治家は新しい資本主義などと、まだ右肩上がりの経済成長を期待しているようだが、十分に成長し成熟を迎えている文明社会が、これから向かう方向はどこなのかをも示唆してくれている気がするのだ。

豊かさが暇と退屈を生むようになり、無駄な物が大量に生産されている現代、改めて自分に必要な物は何か、必要な物は何かを考えさせてくれるのがこの2つの番組である。

グローバルサウスと言われる国々が、先進国の豊かさを自分たちも味わおうと経済発展をめざし、一方の先進国は自国第一主義に傾き世界の霸権を争い、地球環境問題など後回しにされる。若い人们はそれを憂慮し声を上げているが、偉い政治家たちは耳を貸さない。結果、人類はこうして絶滅しましたという歴史が残るだけなのだろうか。



# 「ココロノアリカ」vol.35 『私の取り扱い説明書 その1』

富田 哲郎(水戸南高等学校 定時制同窓会会長)

最近、仕事との向き合い方、必要な合理的配慮に関連して、自分の発達障害特性に対する取扱説明書をまとめるという機会がありました。もちろん一口に発達障害と言ってもその表れ方は千差万別であるとは思いますが、似たような特性を持っている方も一定数いらっしゃると思うので一つのケース事例として、今回から3回に分けて私の取扱説明書の内容を抜粋して紹介していきたいなあ、と思います。何かご参考になる部分があれば幸いです。

前提の情報として、私の発達障害は自閉症スペクトラム障害(ASD)が主な部分を占めていますが、注意欠陥多動性障害(ADHD)の要素も多くあり、知能検査によるIQ面でも凹凸が激しく、特に低い部分は軽度知的障害(LD)レベルとなっていて、特性といつても内容は多岐にわたります。そのため隅から隅まで解析していくのはどれだけ時間があっても足りないし、量が多すぎて自分でもよく分からなくなってしまうと感じたので、対人関係や社会と触れ合う中で強く乖離や齟齬といったかみ合わなさを感じる部分、生きづらさを強く感じる部分を『注意欠陥多動性障害(ADHD)気質に伴う衝動性』『軽度知的障害(LD)レベルの知覚統合の凹み』『自閉症スペクトラム障害(ASD)に伴うこだわりの強さ』という3つの大きなポイントに絞って、その要因や対策を考えるものになります。

さて、早速ですがまず第1回目は『注意欠陥多動性障害(ADHD)気質に伴う衝動性の取扱い』についてです。衝動性が強い=我慢が出来ないと思われがちですが、私の個人的な実感としてはそうは思いません。律する心が弱いのではなく『欲求や感情が強すぎる』のが本質的な捉え方だと感じています。特に身体と心の結びつきが人より強く、それらを切り離して考えることが難しい部分があります。例えば『行きたくないけど行かなければならない』というようなジレンマに対処するのは簡単なことではなく、行きたくないものは行きたくないし、やりたくないものはやりたくない。普通だったらそこで割り切ったり我慢したりして取り組める程度のものだったとしても、自分にとっての欲求や感情といったものはまるで地獄の業火や火山の大噴火といったイメージの強烈な爆発燃焼力を持っていて、ひとたび火がついてしまうと、簡単に消すことも抑えることもできません。たぶん消防車ぐらいの火消し能力は少なくともあるんだと思います。それすら無かつたら衝動性が原因でとっくに死んでると思うので。

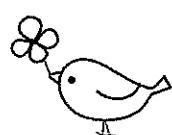
でも消す相手が火山とか地獄の業火なので、結局は圧倒的に足りなくて火は消えないし消せない。そんなイメージです。

こうした衝動性への対策として、初期段階で効果的なのは『まず火をつけない』という工夫です。ウインドウショッピングに行って欲しいものが見つかってしまうと買うまで我慢できないから、買う必要のあるものだけ見るようにして、当てのないショッピングはしない。みたいな感じですね。ただこれだけでは充分ではありません。どんなに気を付けて工夫をしたとしても、それを一生涯ずっと維持することは難しいからです。回数を減らすことはできたとしても、故意にせよ事故にせよ、どこかで火のついてしまう、火がついてしまいそうなタイミングっていうのはやってきます。

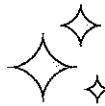
そんな時に必要になってくるのが『服薬・第三者の協力』といった自力以外の外的サポートに助けてもらうことです。特に就寝や起床といった睡眠リズムは火のついた影響を受けやすく、ほんの少しのイレギュラーがあっただけでも、あっという間に夜寝れないとか朝起きれないっていう状況に陥ります。なので、正直なところこうした部分については服薬に頼らないと、社会的なリズムで生活の流れを維持することが難しいです。

また、第三者の協力という部分では『火がつきそうかどうか』という状況をあらかじめ客観的に判断してもらう形が現時点では最も効果的であると感じています。火がついてしまうとどんなに助言をもらったとしても消せないですし、何より自分で自分の衝動性に火がつきそうかどうかを自覚・認知することも難しいので、現在の状況を何らかの形で記録や目に見えるものとして残し、それを隨時確認してもらって事故で火がついてしまう状況をさらに少しでも減らしていくければ、という部分が必要な工夫・合理的配慮になってきます。可能であれば第三者は家族以外の方が良さそうという部分も一つのポイントかもしれません。家族だと距離感が近すぎて感情がぶつかりやすいので『客観的』のつもりでも『主観』になってしまふことは往々にしてあるので。あとは、次回以降書く予定の残り2つのポイントに比べると、衝動性の部分は『できるだけ火をつけない』という形で抑える力点が分かりやすいので、まだ対策の方法が見えやすい部分ではあります。

(次回へ続く)



次回は『軽度知的障害(LD)レベルの知覚統合の凹み』についてです。一つ一つの生きづらさには都度対処してきましたが、本質的な分析ができるまでには5~6年かかりました。生きるって難しい。



# 【5回目の世界一周旅行は開運旅】杉野美子

大人の世界一周アカデミー校長の世界のよしこです。お金がなくても英語が喋れなくても60歳を過ぎても毎年世界一周旅行へ行く賢い**行き方**と何歳からでも挑戦できる**生き方**をお伝えしています。

さて今年も行きました世界一周旅行。

5回目になります。2023年8月23日から一ヶ月の旅でした。ルートは以下の通りです。

福岡→羽田→アメリカ、ロサンゼルス→チリの首都ペルー→コロンビアの首都ボゴタ→スペインのバルセロナ→南仏のプロバンス→スイスのチューリッヒ→トルコの首都イスタンブール →韓国の首都ソウル→福岡空港

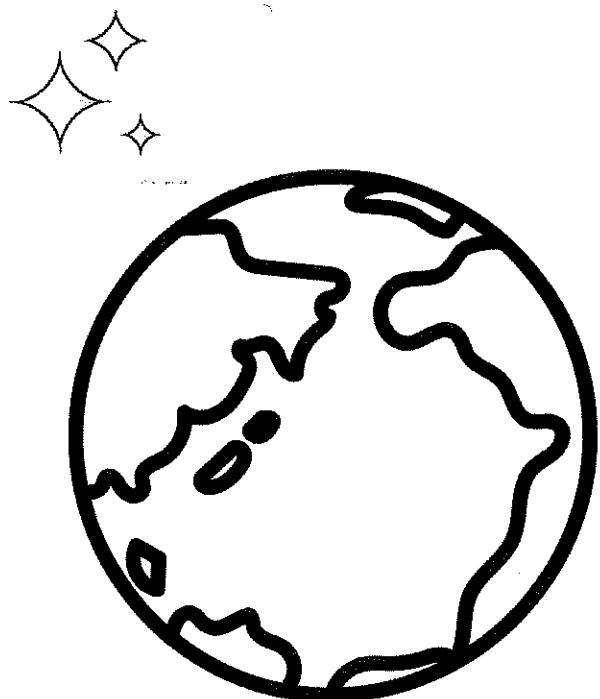
最初の国はアメリカ。ロサンゼルスからは現地在住の友人と一緒に北カリフォルニアのシャスタ山に向かいました。ネイティプアメリカの聖地としてセドナと共に知られているパワースポットです。神聖なる土地のエネルギーを大いに感じました。不思議な写真も撮れました。新しいビジネスアイディアも降ってきました。

2番目の国は南米ペルー。2回目のマチュピチュ遺跡に行きました。前回と違うのは日本語ガイドをお願いしたこと。私は自力で行けるのでガイドは必要ないのですが「大人の世界一周アカデミー」の卒業生が行く際にガイドを付けた方が安心だと思うのでまずは私がガイド体験をしました。自分で体験したもののしか勧められないで。日本語の堪能な現地ガイドさんと一緒に楽ちんで安心でした。4年前に行ったときは「私には無理」とあきらめた二つの山にも登りました。マチュピチュ遺跡の隣のワイナピチュ山とクスコから行く標高の高いレインボーマウンテンです。ガイドに励まされて登ることができました。私には無理と思っているのは自分の思い込み。できると思えばできるものですね。言葉の力を実感しました。3つめのパワースポットはスペインのバルセ

ロナのサグラダファミリアです。4年前に訪れたときはそのユニークさと大きさに圧倒されました。今回は建物のパワーを感じました。建物でなく生き物だと感じました。旅の後半は友人たちと食事を楽しみました。たった1ヶ月だと思っていたのが充実の1ヶ月でした。パワースポットを巡る楽しい旅になりました。来年は4月から半年世界一周旅行へ行く予定です。

お金がなくても英語が喋れなくても60歳過ぎても毎年世界一周旅行へ行ける秘密を知りたい方はぜひ無料メルマガを読んでください。毎月無料体験会もやっています。あなたの人生に旅という喜びを。

公式サイト <https://445life.com/>





子どもって、家事とかで忙しいときに限って「ねーねー、これ見てー」って来ませんか。「なんで今なー！」ってなっちゃいますよね。毎回子どもにしっかり向き合って、じっくりと見てあげることは難しいですよねー。どうしても「ちょっと待って」「あとでね」と聞き流してしまうこともあります。

どうして子どもは「見て見て攻撃」をしてくるんでしょうか。それには大きく3つの理由があるんです。

「承認の欲求」「安全の欲求」「寂しさ・不安」の3つです。

**【承認の欲求】**はなんとなくわかりますよね。

自分が頑張ったことやよくできていることを認めてほしい、ほめてほしい、と思って親にアピールするわけです。この場合、親から「よく頑張ったね！」「すごい！」「上手だね！」という言葉をもらうことが目的であり、しっかりほめられると満足します。また、けがをしたときに傷を見せたがるのも、「痛かったね」と共感してなぐさめてほしい気持ちや、「よく泣かなかつたね」と我慢した自分を認めてほしい気持ちが根底にあるんだそうです。

**【安全の欲求】**とはどういうことでしょう。

たとえば、鉄棒や滑り台などで「やるから見て！」と言うのは、相手を信頼しているので、そこにいることで安全が保証されていると感じられるんですね。それが安心感になって難しいことにもチャレンジできるわけです。「見て！」と言われたということは、子どもから信頼されている、認められていることの証なのです。

**【寂しき・不安】**という場合もあるそうです。

「欲求」以外の理由もあるんですね。

イクメン講座でよくお名前が出てきますカリスマ保育士・てい先生は、「最近パパ・ママが忙しいとか、下の子に手がかかるて自分に対する愛情が確認できないといったとき、その不安や寂しさから『見て見て』が続くパターンがある」と指摘しています。

この場合、どんなにその場で見てあげても、ほめてあげても、何度も同じことを繰り返すケースがあるのだそうです。なぜなら、子どもの目的は「ほめられること」ではなく、「自分のことを見てほしい、もっと自分にかまってほしい」ことだから。寂しさを埋めて心を満たしてあげるには、その場の対応だけでは不十分なのかもしれません。『見て見て攻撃』に対して親としてはどう対処するのが良いんでしょうか。基本的には、「見て」ときたなら「見る」なんです。

見るだけなら数秒から数分の短い時間ですから、手を止めたくない状況でも可能な限り見てあげた方がいいです。さらに嫌々な感じではなくて、「見せて！」と興味をもって見るようにならう。

「あとで」はよくありません。後回しが多くなると、「自分は大切にされていない」と不安になってしまいます。そうなるとだんだん親に話すことをしなくなってしまうかもしれません。とはいえ、どうしても今は無理な状況もありますよね。そんな時は「5分だけ待って」など具体的な時間を言って、必ずその約束通りに見てあげることです。後回しにされたのではなくちゃんと約束を守ってくれたと思ってもらうことで信頼を失わないようにするんです。

一方で、その場で見てあげることで満足する子と違い「寂しさ」や「不安」から「見て見て攻撃」してくる子には別な対応が必要だそうです。

てい先生は「1日5分でいいので、その子の視線の先を追ってみる、ということをやってみて」とアドバイスします。子どもの様子をじっと観察するのは、普段なら心に余裕があるときや、「いたずらしないかな？」「おりこうにしてるかな？」と心配しているときくらいかもしれませんね。ですが、何気ない日常の中で、ほんの5分でも「ただ子どもの様子を見る」時間があることが、とても重要なのです。てい先生によると、「(寂しさや不安から)見て見てアピールをする子は、1日のなかで『ママ何しているかな』『パパどこにいるかな』と、ちらちら大人の様子を何回も確認しているのだと言います。このように、子どもが親の様子をちらちら確認しているとき、親が子どもの視線の先を追っていれば、バチッと目が合いますよね。その瞬間、子どもは「あ、ママこっち見てくれた」「パパはぼくのことちゃんと見てくれている」と安心するのです。親から認められたりほめられたりすることは、子どもにとって特別な嬉しさがあります。自己肯定感が高まるし、ますますやる気ができます。日々のちょっとした承認欲求を満たしてあげることを繰り返すことで、「もっとがんばろう」と言う前向きな気持ちが育つんです。「見て見て攻撃」が毎日続くと、「忙しいのに」「手が離せないのに」ということもあるでしょう。しかし、子どもはあつという間に成長します。思春期にもなると話しかけても来なくなっちゃうかも。「見て見て攻撃」は子ども時代の少しの間のことです。「見て見て！」は子どものやる気アップのチャンスですので、「おっ！いいねー。」と声をかけてあげましょう。

## ●絵本の紹介●

## 「図書館司書」 すんちゃん



このほんよんでくれ！



オオカミは人間の親子が絵本の読み聞かせをしているところに出くわします。後ろからそーっと近づいてバレないように一緒に絵本の読み聞かせを聞き、あまりの楽しさに夢中になります。偶然絵本を拾い、ラッキーとばかりに続きを読もうと絵本を開きますがオオカミは字が読めないです。どうしても続きが気になるオオカミは森の動物たちに読んでもらおうとお願いしますが、みんな怖がって逃げてしまいます。そんな中一匹のウサギがオオカミにおそるおそる声をかけます。絵本っていいなーと絵本の魅力を感じる作品です。

ベネディクト・カルボネリ／作

ミカエル・ドゥリュリュー／繪

ほむらひうし／訳 出版：クレヨンハウス

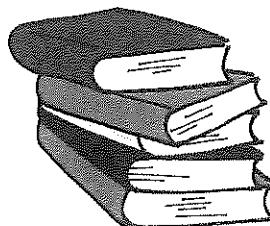
あめだま



著者ペク・ヒナさんの作品はどれも人形と緻密なセットで作られ、まるで映像をみているような特徴があり一度みたら忘れられません。著者の作品の中でも特におすすめしたいのがこの絵本です。ひとりぼっちに見える男の子、ドンドンは文房具屋で6つのあめだまをみつけます。それは食べるとお家のソファーや愛犬などの声が聞こえる不思議なあめだました。あめだまを通して愛に気づき成長する少年の姿にウルッとします。心に深く響く映像と物語をお楽しみください。

ペク・ヒト／作

長谷川義史／訳 出版：フロンス新社



# しんせつなともだち



方 穀羣（ふあん（い）-ちゅう）／作

村山 知義／繪 美島 久子／訳

出版：福音館書店

雪が降り積もる寒い季節のとってもとってもあったか~いお話を。食べ物がないこの季節にお腹を空かせたウサギが2つのかぶをみつけます。1つはすぐに食べますが、もう1つは同じようにお腹を空かせているであろうお友達のロバに届けることにします。あいにくロバは留守だったため、かぶを家においていきます。お家に帰ったロバはかぶに驚きますが、同じように困っているであろうお友達のヤギに届けることにします。思いやりを乗せたかぶはどこに向かうのでしょうか。

# まちがいさがし (10か所あるよ)

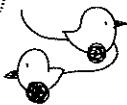


## 毎月の活動（その他 文化創造体験活動、自主活動なども開催しています）

\*変更や中止になる場合もありますのでお問い合わせ下さい。

<p>おもちゃ貸し出し  <b>エルマークラフ</b> 対象：幼児の親子 【申込制】  <b>毎週水曜日、第1・3金曜日</b> 利用無料          水戸こどもの劇場事務所（各回1～2組限定）          ①11：00～11：45②12：00～12：45③13：00～13：45          *おもちゃや本の貸し出しあり          貸出料 会員無料（要登録3千円、会員外1回500円）          ○お申し込み ホームページから          またはお電話で 事務局 029-255-0908</p>	<p>多世代交流  <b>たまり場「はやま庵」</b>  <b>毎週月曜日</b> 10：00～12：30 利用無料          水戸市老人福祉センター葉山荘内和室          ○お問い合わせ 葉山荘 029-243-5508</p> <p><b>ゆる~いヨガの会</b> 毎月1回 対象：大人          硬くても大丈夫！参加費：会員500円、非会員1000円          水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）          詳しくはホームページからお問合せください。</p>
<p><b>ガレッジセール</b> 【申込制】          月1回程度 主に火曜日+時々土日 1時～14時          水戸こどもの劇場事務所隣 トレーラーハウス          子ども服や雑貨日用品などをご覧下さい。          *日程・予約はホームページまたはお問合せください。</p>	<p><b>ガフの会</b> 毎月読み聞かせ会をしています。          東部図書館 2F 第1・5土曜日 14時～14時半          見和図書館 第3土曜日 14時～14時半          参加費：無料</p>
<p><b>comodo（コモド）</b> 対象：大人          月2回程度 10時～12時          発達が気になる、HSC等、子育ての悩みを話す会          水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）          ○お問い合わせ 事務局 029-255-0908</p>	<p><b>みとぴよ音楽隊♪</b> ファミリーブラスバンド          毎月5回程度 9時半～12時（対象：大人 子連れOK）          楽器の演奏を楽しんでいます。依頼演奏も          参加費：要活動会員登録（年3千円）          入会金1000円・毎回200円          *練習場所等についてはお問い合わせください。</p>
<p><b>多胎児サークルかるがも</b>          双子ちゃん三つ子ちゃんを持つ親子のサロン          月1回金曜日 10時～12時          水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）          ○お問い合わせ 事務局 029-255-0908</p>	<p><b>ウクレレ&amp;ギターサークル♪「ピコ」</b> 対象：大人          每月1回 10時半～14時（子連れOK） 事務所にて          ゆる～くウクレレやギターを楽しむ会です！          参加費：会員無料、会員外1回300円          *見学できます。気軽にお問い合わせください。</p>
<p><b>子どもの居場所“ポルタ”</b> *見学できます！ 【申込制】          日時／場所：火・水・木曜（祝日・年末年始・お盆休み除く）10：00～15：00 入退室自由          火曜日 のっぱらカフェ（水戸市根本1-146） 水曜日 水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）          木曜日 水戸こどもの劇場事務所（水戸市見川2-82-11）          対象：小学生～中学生のお子さん、親子、大人 参加費：1回500円+登録料年間5000円          ○お問い合わせ・お申込み 水戸こどもの劇場HP、又は事務局まで 電話 029-255-0908</p>	<p><b>水戸市子育てひろば ぽかぽかつどいの広場</b> （水戸市受託事業）          毎週火・水・木・金・土 10：30～15：30（日・月・祝日閉館）          場所：水戸市福祉ボランティア会館（ミオス2F）          未就学児の親子を対象に、交流の場を提供しています。          参加費：無料 毎月講座開催中（講座のみ予約制）          ○お問い合わせ ぽかぽかつどいの広場 電話 090-8348-5375 まで</p>
<p><b>moso カフェ</b> 対象：大人          月1回程度 10時半～14時 ウクレレなんかも♪          事務所となりトレーラーハウスにて          ゆったりまったり自由に過ごすゆる～い会です。          手作りのお昼ご飯やバザー品もあります。</p>	<p><b>遠足くらぶ</b> 対象：子ども～大人 【申込制】          複数家族で季節ごとに山歩き、釣り、サイクリング、          果物狩りなど、いろんなことを体験しています。          参加費：会員無料、会員外1回500円（その他実費）          詳しくはホームページからお問合せください。</p>
<p><b>室内ゲームの会「On the table」</b> 対象：小1～大人          毎月1回、土曜か日曜祝日（不定期） 10時～15時          水戸こどもの劇場事務所で、電気のいらないゲーム、          カードゲームやボードゲームで楽しく遊びます。          参加費：無料 出入り自由</p>	<p><b>ほっと！HOT！スクウェア</b> ファミリー情報番組          毎週土曜日 15時～16時 每週火曜日（再）          スタッフはみんなお父さんお母さん、生活の中で気づいた疑問、得た情報を放送中です！          ラジオFMぱるるん 76.2MHz 放送中！</p>

0歳児・1歳児  
親子の日あります



## ●訪問型病児保育“ぶちぶり”のご案内●

対象：水戸市居住の生後6ヶ月～小学生までのお子さん

実施場所：水戸市内の利用する児童の自宅

利用時間：原則として8時～20時まで

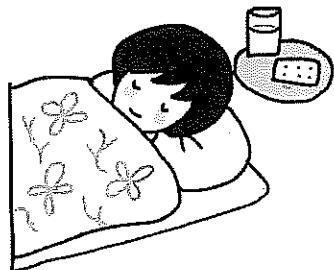


水戸市受託事業として水戸こどもの劇場が実施しています。

病気のお子さんを、研修を受けたスタッフが登録のあったご家庭に伺って見守ります。

事前登録、医師連絡票が必要です。

その他詳細は、水戸こどもの劇場ホームページをご覧ください。



\*登録会を開催しています。(要予約)

(お問合せ) TEL029-255-0908

### 会員募集中！

入会は、子どもから大人まで。

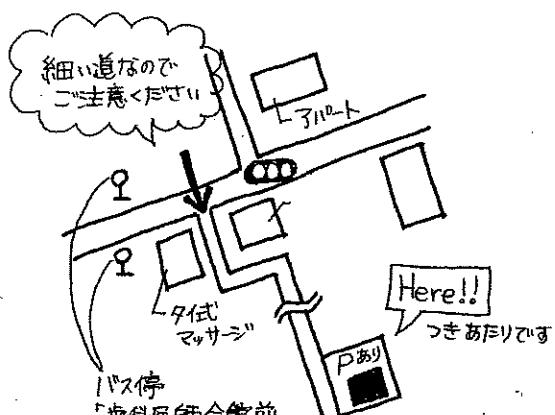
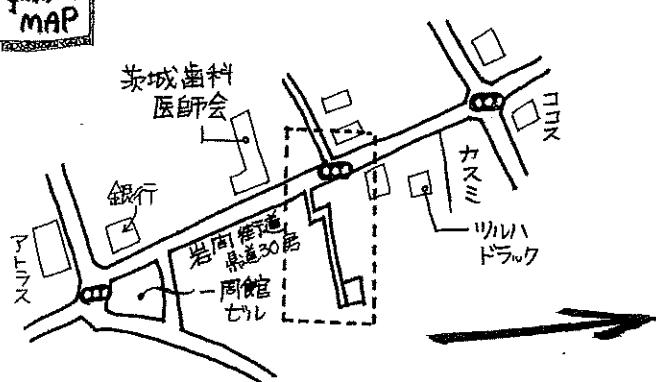
正会員	入会金	500円
	月会費	1,000円
活動会員	年会費	3,000円
ボランティア登録会員	(大人のみ)	学生無料
	年会費	1,000円
賛助会員	一口	5,000円～

\*賛助会費は寄附扱いになります。

### ＜賛助会員の皆さん＞

石川クリニック様、水戸吉沢小児科クリニック様、河和田幼稚園様、サンライフ・サンフーズ様、モダンデンタル中庭歯科医院様、乳がん仲間の小さなおしゃべり会momo様、水戸産業医事務所様、雨宮則子様、井上多加志様、井上瑞穂様、岩田みなみ様、内桶純子様、加藤智明様、河原井忠男様、杉野美子様、柳橋剛様、田中光彦様、中根一昭様、野口祥子様、袴塚雅彦様、大倉美紀様、植木剛様、森田直幹様、森田大輔様、桜井大介様、岩熊玲央奈様

(順不同・10月末現在)



- カスミ側から1つ目の信号を左折です。
- 駐車場あります(台数に限りあります)

<住所：水戸市見川2-82-11>

## ◆寄附のお願い◆

私たちの活動は、会員の会費や助成金、行政からの委託などの事業収入、ボランティアスタッフの奉仕によって実施されています。

全ての子どもたちが尊重され、この地に生まれてよかったと思える環境を私たち大人が創ることが豊かな未来を育てる信じています。未来を育てる活動をご支援ください！

認定NPO法人として多様な活動を支えるために1人3,000円～、年間100名以上の寄附者を募集しています！ご協力をお願いいたします。

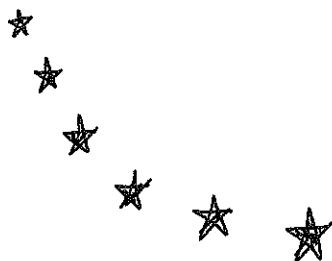
認定NPO法人への寄附は、確定申告をすると税金の還付が受けられます。  
ぜひ応援よろしくお願ひいたします。

<お振込先>

- ・郵便振替 00300-8-1833 水戸こどもの劇場
- ・常陽銀行 見和支店 普通 1261264



p.8 まちがいさがしの答え  
10個見つかったかな～？



まちがいさがし (10ヶ所あるよ)



<広告>

## まるごとカフェ

平日11:00～16:00(土日祝休み)

- ・お弁当イートイン(カフェで食べられます)
- ・ユーアイ子育て支援センターのすぐとなり
- ・ユーアイほいくえんのすぐとなり
- ・平日14時からはフードロスタイルでお弁当100円!  
(売り切れ次第終了します)



社会福祉法人ユーアイ村 | ユーアイキッチン  
水戸市吉沼町1429-12 電話029-212-3775

## 中古車購入 衝撃のシステム

- 毎週10万台以上のオークション出品車両から、お気に入りのクルマをお選びいただけます。
- オークション出品車両を直接買い付け、お客様にお届けしますので、**中間マージンの大幅カット**によりとにかく**安い**！
- 出品票・評価点オープンで厳格な品質チェックにより、安心してクルマをお選びいただけます。
- 1年間無料ロードサービス付き

お気軽にお遊びに来てくださいね。  
スタッフ一同、心よりお待ちしております。

お問い合わせはフリーダイヤル 0120-977-380  
中古車情報館 スーパーオークション水戸河和田店  
水戸市河和田町3035-14 営業時間 10:00～20:00 定休日 月曜



50号バイパス・岩間街道交差点内

### ●編集後記●

- ・(H) 子どもは自分で育つ、親は文字通り木の上に立って見守るのが一番なのでしょうけど、それがなかなか難しいんですよね。親も子どもに関り過ぎず、自分の好きな事をして笑ってたらいいのにな～
- ・(N) 後藤誠子さんの講演会を聴いて娘の不登校の頃を思い出し涙が。親と子は違う、考えを押し付けない、身に染みてます。今は元気でいきいきです♪